

バグスクール 2025： モーメント・スケープ



2025.12.17（水） - 2026.2.8（日）

「バグスクール」はグループ展×参加型プログラム×作品購入を組み合わせたアートプロジェクトです。インディペンデント・キュレーターの池田佳穂が BUG と協働で考案し、今年で 3 回目の開催となります。アーティストと対話し、学び合うなかでの作品購入体験も創出します。BUG の活動方針の一つであるキャリアの支援に基づき、作品販売経験の少ないアーティストにその機会を提供します。作品販売に関する書類作成や、価格やサイズの検討などのプロセスにも関わり、アーティストの活動の幅を広げる応援をしています。

ラーニングスペースについて

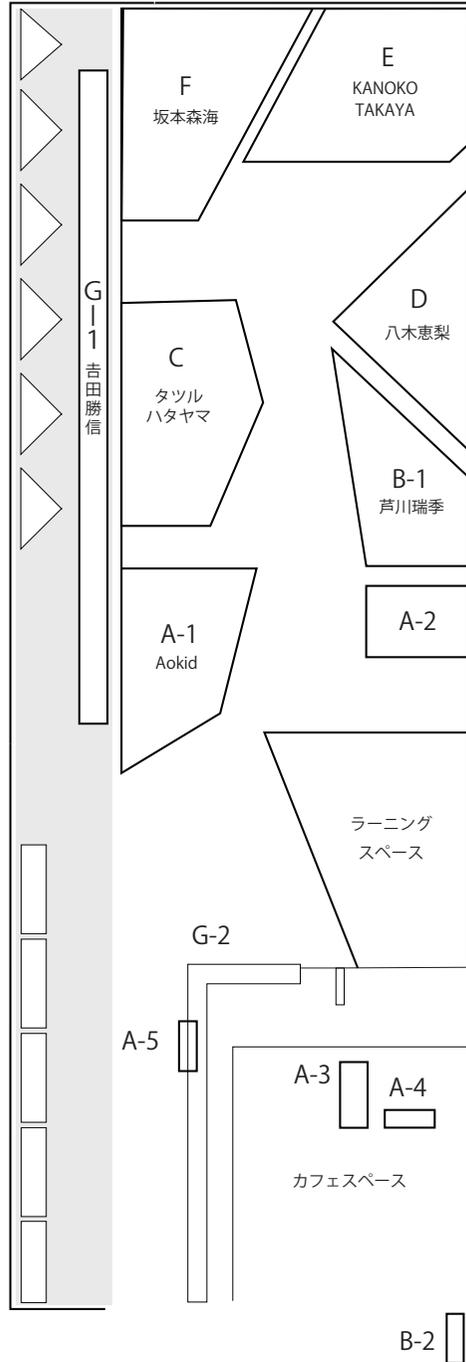
「バグスクール」ではラーニングスペースを設けています。ここは、参加型プログラムの会場となるほか、出展アーティストの推薦書籍も読むことができ、展示以外の側面からアーティストへの理解を深めることができます。お子様やご友人と、鑑賞の合間に一息ついたり、作品について語り合ったりと、どなたでも自由にご利用いただけるスペースです。なお、このラーニングスペース内でのみ、BUG Cafe の飲み物をお楽しみいただけます。

展示作品の購入について

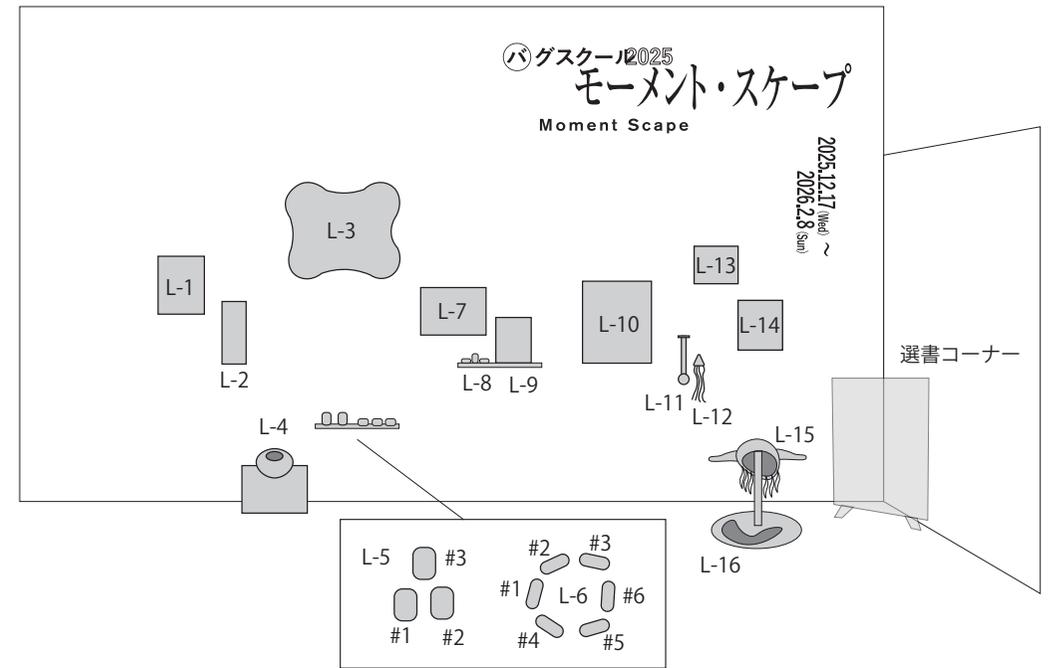
会期中、展示作品を販売しています（一部除く）。展示を見て気になった作品や、プログラムに参加してファンになったアーティストの作品をご自宅で楽しむことができます。ラーニングスペースでは作品を部屋に飾る方法も紹介しています。売上は、アーティスト収入分、作品配送経費等を除く収益金を、セーブ・ザ・チルドレンに寄付し、今と未来を担う子どもたちの支援のために役立てます。



作品リスト



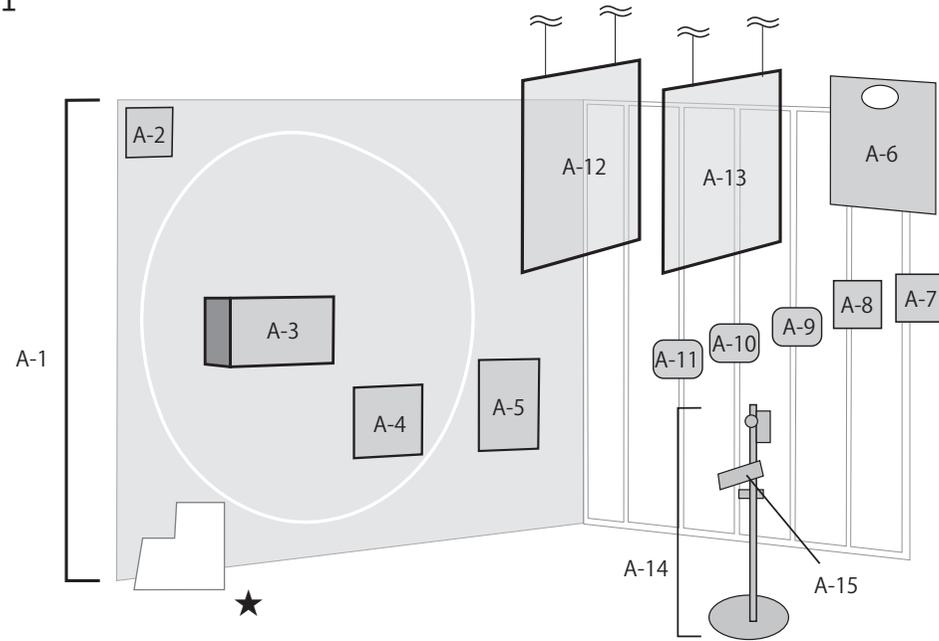
ラーニングスペース



- | | | | |
|---|---|--|---|
| <p>L-1 KANOKO TAKAYA
《Sotto Touch》
2025年
アクリル絵具、キャンパス</p> | <p>L-2 KANOKO TAKAYA
《Yonakae》
2025年
アクリル絵具、粘土、
レジン、キャンパス</p> | <p>L-3 KANOKO TAKAYA
《Hug》
2025年
木、布</p> | |
| <p>L-4 坂本森海
《七輪》
2025年
陶</p> | <p>L-5 坂本森海
《山中茶器》#1~#3
2025年
陶、山中 suplex の砂、
鹿のフン</p> | <p>L-6 坂本森海
《小さい豚のオブジェ》#1~#6
2025年
陶</p> | |
| <p>L-7 八木恵梨
《「前向きに考えるんだ... 前向きに」》
2024年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩</p> | <p>L-8 八木恵梨
《きゅうり》#1~#41
2025年
レジン、アクリル絵具</p> | <p>L-9 八木恵梨
《主人》
2024年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩</p> | |
| <p>L-10 Aokid
《キャンペーン》
2021年
紙、マジック、ペン</p> | <p>L-11 吉田勝信
《御守》
2020年
木、青苧、石</p> | <p>L-12 吉田勝信
《八又の家飾り》
2020年
貝殻（鮑）、胡桃樹皮、青苧</p> | |
| <p>L-13 芦川瑞季
《かませ犬》
2017年
洋紙、
油性インク（リトグラフ）</p> | <p>L-14 芦川瑞季
《桜泥棒》
2025年
洋紙、
油性インク（リトグラフ）</p> | <p>L-15 タツルハタヤマ
《ウィッグ帽子》
2025年
布のはぎれ、糸、帽子</p> | <p>L-16 タツルハタヤマ
《つぎはぎソックス》
2025年
布のはぎれ、糸、靴下</p> |

A : Aokid

A-1



A-1
《環境（動きかけの
インスピレーションがある）
のスケッチ&ドローイングしよ》
2025年
ミクストメディア

A-2
《東京青》
2025年
紙、ペン、アクリル絵具、木板

A-3
《movie/hand》
2025年
シングルチャンネルビデオ、
ダンボール、石、鉛筆
★台に登って作品をご覧頂けます。

A-4
《鉢巻》
2025年
紙、ペン、
アクリル絵具、木板

A-5
《BUG と、今日おどり》
2025年
紙、マジック、
ペン、色鉛筆、紙

A-6
《山の絵、カレンダー、まっくら》
2025年
紙、アクリル絵具、
ジェッソ、マジック、鉛筆

A-7
《地図棒》#1
2025年
流木、キャンパス、
アクリル絵具、ひも

A-8
《地図棒 #2》
2025年
流木、キャンパス、
アクリル絵具、ひも

A-9
《富士山と Aokid2025》
2025年
シングルチャンネルビデオ

A-10
《BUG（東京駅近郊）と Aokid》
2025年
シングルチャンネルビデオ

A-11
《江ノ島と Aokid2025》
2025年
シングルチャンネルビデオ

A-12
《はっぱ》
2025年
紙、マジック

A-13
《元氣人》
2025年
紙、マジック

A-14
《“月る、幽霊る、角く、春”を
やってみるコーナー》
2025年
紙、ブルーシート、
マスキングテープ、色鉛筆

A-15 (iPad 映像)
《どこにでも国の頼りを見
つけられようござだせる》
2025年
シングルチャンネルビデオ

A-2

ラーニングスペース左上

A-19
《Tying 3（星、人、ゾウ）》
2025年
ブルーシート

A-3

受付上スペース

A-17
《絵（縦の地球）》
2025年
紙、アクリル絵具

A-4

受付上スペース

A-16
《絵（左、中、右）》
2025年
紙、アクリル絵具

A-5

カフェカウンター下

A-18
《drawing(earth)》
2025年
紙、マジック、ペン、色鉛筆

～ 鑑賞の鍵 ～

Aokidさんは、ダンサーとしてパフォーミングアーツ作品に取り組むだけでなく、身体感覚を起点にドローイングや映像作品も制作。本展では、均質化された都市ではなく、「何かになれるかもしれない」という希望を内包していた場としての都市・東京をテーマに、作品展示に加えて、来場者との共有地として空間を開きます。会期中には Aokidさんが滞在制作のように会場に通い、日常的な練習から、ときにその場にいる人の感情を揺さぶるような大胆なアクションまでを実践します。薄いブルーの展示壁には、会期中の痕跡が積み重なり、それらがひとつの光景として立ち上がるかもしれません。その光景をゆっくり眺めたり、来場した Aokidさんと一緒に踊ったり、ひとりでそっと体を揺らしてみたり。思い思いのかたちで自由に過ごしてみてください。

プロフィール

14歳の時にミスチルのアルバムを手にとると”世界”に対して自分なりの考えを持ち、言っていないんだ、というのがわかって音楽をやりたいと強く思った。周りに言えなくて楽器の代わりに買ったダンスの本を頼りに次の日から学校の友人とダンスを始めた。映画のような青春を目指した理由である、大学で映画専攻のある美大に入り周りの真似をして絵を描くことを始めるとそれが小さい頃の記憶と接続することがわかった。大体その頃から都市というものがある世界にありたいとそれを目指していった。生きていく運動を伴って変わる時間や空間に興味がある。

主な展覧会は、個展「この家の天井は天空とつながっている。」（アート / 空家 二人、東京、2025年）、個展「CALENDAR」（Art Center Ongoing、東京、2023年）、個展「空をおこして」「顔をみせて」（STスポット、横浜、2023年）など。

Instagram



X



Web サイト

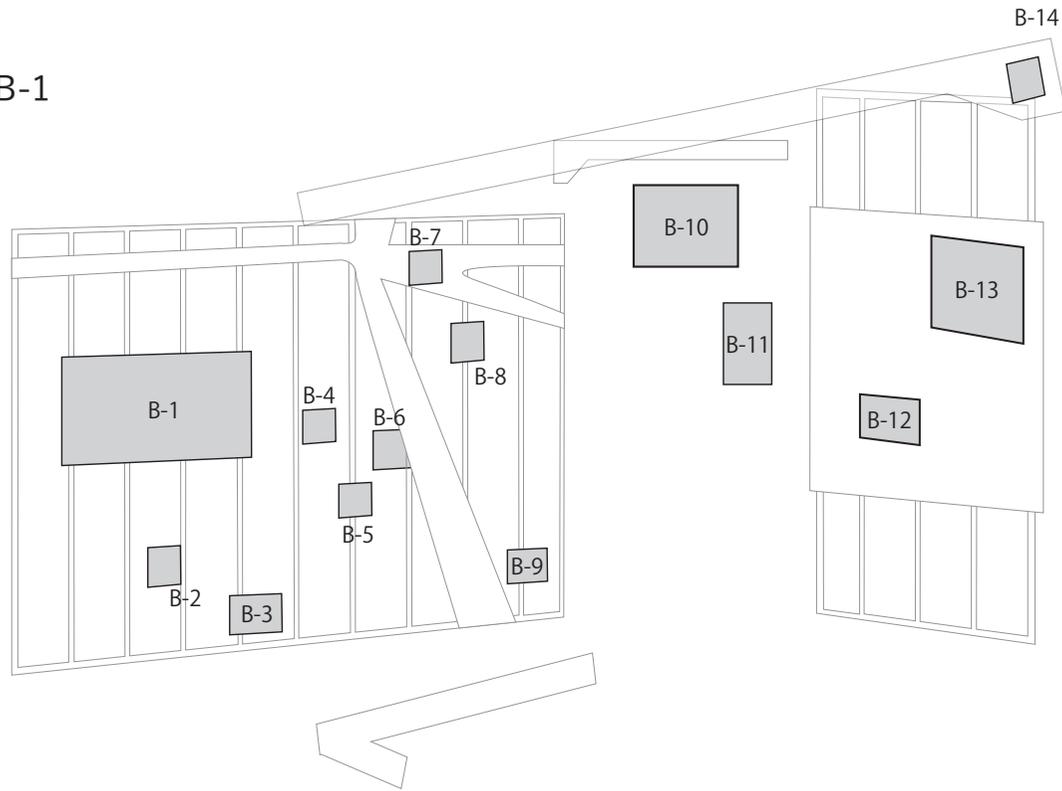


インタビュー



B：芦川瑞季／Mizuki ASHIKAWA

B-1



B-1
《フィールド・メイト》
2025年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-2
《タトル》
2023年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-3
《中小結社》
2023年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-4
《タイニー・ガイズ01》
2023年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-5
《公と僕》
2023年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-6
《ここからでない蜚》
2025年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-7
《タイニー・ガイズ02》
2023年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-8
《フリスビーバトル》
2024年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-9
《走る鏡》
2025年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-10
《臨海公園》
2022年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-11
《行くためにつくる》
2025年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-12
《塩と晶の君》
2025年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-13
《船になる》
2025年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-14
《かたまりシンフォニー》
2024年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

B-2

カフェ入口付近壁

《ホルダー 01》
2021年
洋紙、油性インク（リトグラフ）

～ 鑑賞の鍵 ～

芦川さんは、リトグラフ技法を用いて作品を制作しています。近年は、時間の経過とともに移り変わる風景に関心を寄せ、主に東京の埋め立て地を訪れて、その様子を観察・記録してきました。具体的な風景の描写にとどまらず、観測する自身の感覚や断片的なイメージを組み合わせ、たとえ相いれないものであっても、不可逆性をもつリトグラフという手法によって、それらを一枚の版に統合しています。その過程は、埋立地から湾を隔てて東京を見つめた際、雑多な街並みがひとつの像として立ち現れてくる感覚に近いかもしれません。また、芦川さんは遠いものや大きなものを見るときに生じる錯覚や知覚にも関心を寄せ、本展では白いパネルを用いて、インスタレーションとして展示空間を構成しています。回遊するように視線を動かしながら鑑賞してみてください。

プロフィール

1994年生まれ。武蔵野美術大学大学院博士後期課程修了。出会った風景から受容した気分をもとに、リトグラフを用いて作品制作を行う。版の表面性や不可逆性と、知覚から得られる情報を重ね合わせ断片的イメージを構成している。近年は過渡性のある風景に関心がある。

Instagram



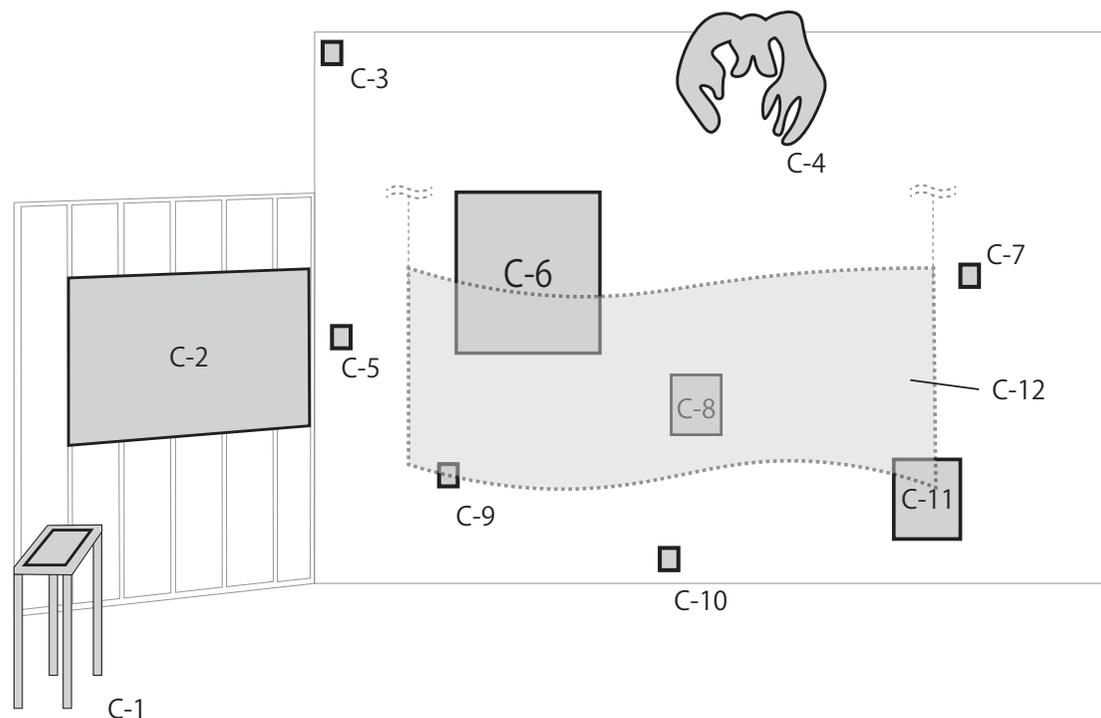
Web サイト



インタビュー



C：タツルハタヤマ / Tatsuru HATAYAMA



C-1
《つぶれたザクロ》
2025年
布のはぎれ、糸

C-2
《蝶の神話》
2024年
布、糸

C-3
《うらのネイルチップ》
2025年
布に印刷

C-4
《カブトムシと鯉の羽》
2025年
布、糸、綿

C-5
《蛇のぬげがら》
2025年
布に印刷

C-6
《YOKIHEM島の地図》
2024年
布、糸

C-7
《影が覆って揺れている》
2025年
布に印刷

C-8
《タマムシ》
2025年
布のはぎれ、糸

C-9
《遠くへ行きたい》
2025年
布に印刷

C-10
《彫刻科の石》
2025年
布に印刷

C-11
《バーンルアン・モスク近くの花》
2025年
布のはぎれ、糸

C-12
《私のいつもの帰り道、あなたの笑顔を思い出す。あなたが生きてくれたから、わたしは何とかやってける》
2025年
布のはぎれ、糸、アクリル絵具

～鑑賞の鍵～

タツルさんは、現実と妄想の境界があいまいになる瞬間に魅力を感じ、日常風景で出会ったイメージを組み合わせながら、自らの神話を紡ぐように「布」を用いた絵画作品を制作しています。本展では、「帰り道」をテーマに、道中で咲く草花や生息する生物、そしてそれらを取り巻く風景をモチーフとして、日常のなかで、気づかれぬまま消え去ってしまう刹那の感覚や、移ろいゆく繊細な軌跡をすくい取るように表現しています。

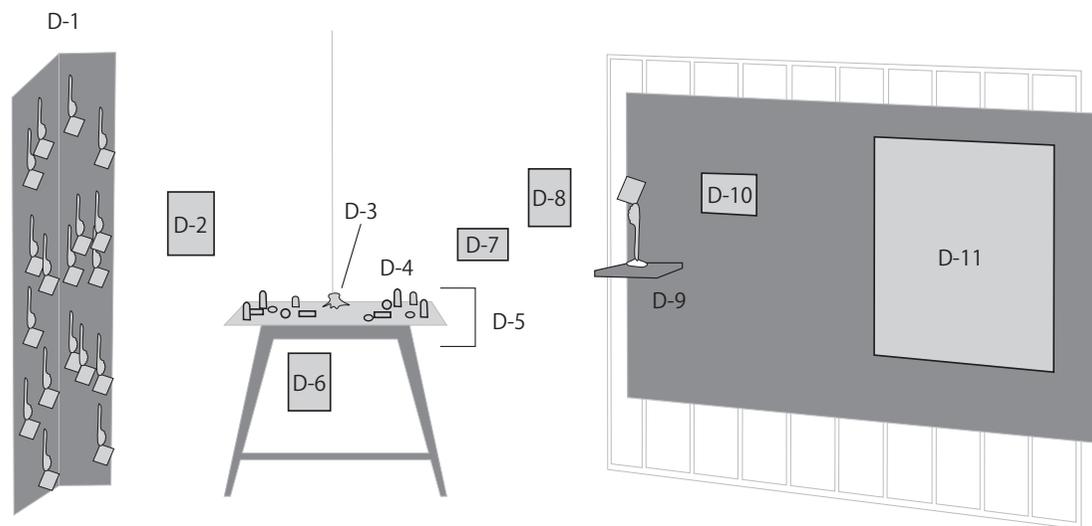
また、テキスタイル作品に加え、写真作品や詩もあわせて展開しています。会場に散らばる言葉を手がかりに作品を辿ったり、作品のなかで見つけたイメージを自身の記憶や生活風景と重ね合わせたりしながら、いくつもの角度から展示空間を味わってみてください。

プロフィール

現実と妄想の境界があいまいになる瞬間に魅力を感じ、ドローイング、服、タペストリーなど様々な表現方法を試しながら作品を制作している。近所の草花や子どもの時の記憶、世界各地の神話を手掛かりに美術を通して新しい物語を紡いでいる。主な展覧会は個展「カラフルなパレード」(Art Center Ongoing、東京、2025年)」など。



D：八木恵梨／Eri YAGI



D-1
《つままれたドローイング》#1~#18
2025年
水彩紙、インク、トング、リボン

D-2
《何か飲む？》
2025年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩

D-3
《半魚人の手》
2025年
シリコン、金具

D-4
《きゅうり》#1~#41
2025年
レジン、アクリル絵具

D-5
《半魚人のテーブル》
2025年
ミクストメディア

D-6
《人魚の尻尾を持つ男》
2024年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩

D-7
《ネバーエンディングストーリー》
2025年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩

D-8
《黒い革手袋のある眺め》
2025年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩

D-9
《つままれたドローイング》#19
2025年
水彩紙、インク、トング、
レジン、アクリル絵具

D-10
《がっかりさせないで》
2025年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩

D-11
《山、谷、そしてきゅうりだ》
2025年
木製パネル、和紙、
ポローニャ石膏、鉛筆、水彩

～鑑賞の鍵～

八木さんは、言葉にしにくい事柄と出会ったとき、記憶から関連しそうなイメージを描き出したり、ときには連想ゲームのようにイメージ同士を結び合わせながら、一枚の作品へと展開していきます。本展で注目したいイメージは、「半魚人」と「テーブル」です。インスタレーション《半魚人の手》では、イメージを配置し、整理する盤上を象徴する「テーブル」が、予測不可能な他者をあらわす「半魚人」によって突然叩かれる様子を体験することができます。それは、ちゃぶ台返しのような感覚ともいえるでしょう。本展では、その瞬間に触れながら、怒りをぶつける態度について考えたり、展示作品に登場する半魚人やテーブル、さらにそれらに付随するほかのモチーフと結びつけながら、連想ゲームのように自身の物語を紡いでもよいかもしれません。

プロフィール

1994年沖縄県宮古島市生まれ。「うまく説明できないけれど、直感ではそれが重要だとわかる」、そんな“暗示めいた事柄”を、イメージを通して解読し、他者に共有しようと試みています。近年は、「怒ってテーブルを叩く半魚人」のイメージを中心に制作しています。

Instagram



X

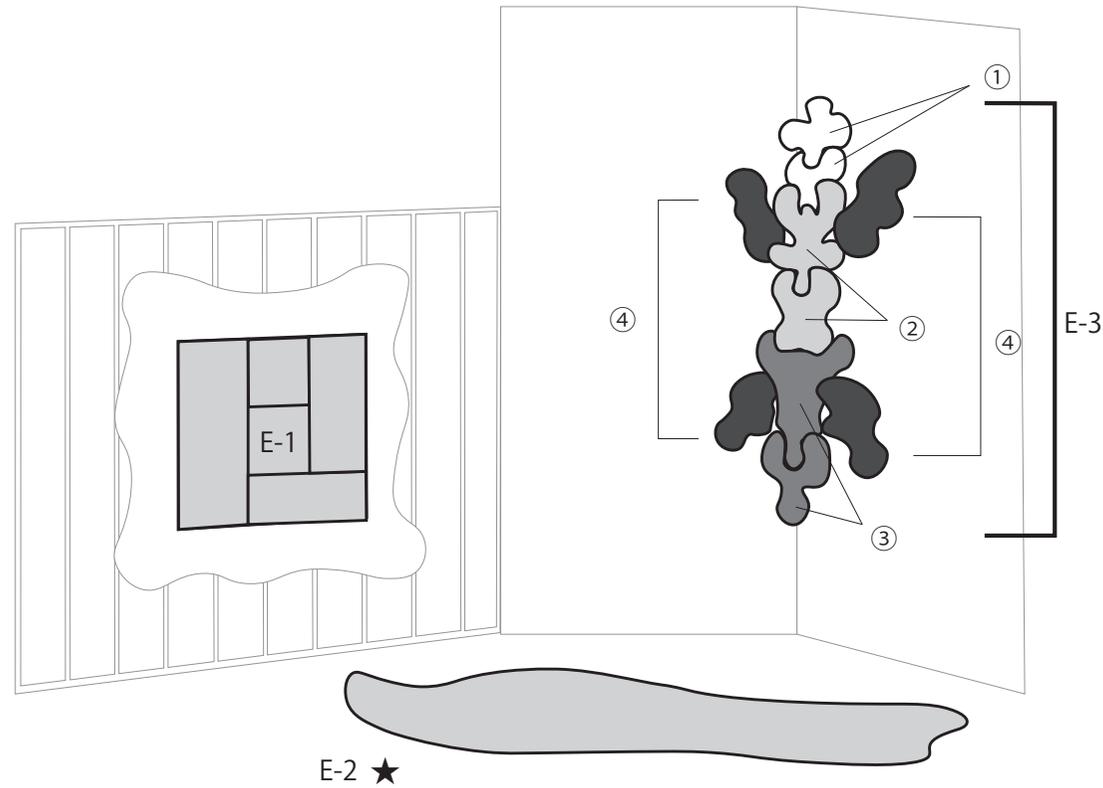


インタビュー



※インスタレーション《半魚人の手》を体験されたい方は受付スタッフまでお声がけください。

E : KANOKO TAKAYA



E-1
《Core Bloom》
2025年
アクリル絵具、紙、
ココナッツファイバー、
ジェッソ、石膏、レジン、
糊、キャンバス

E-2
《Lie with me》
2025年
布、ポリスチレンビーズ

E-3
《Inner Column》
2025年
アクリル絵具、紙、
ファイバーグラス、
レジン、布、スポンジ、木

E-3①
《Inner Column:
Neck Area》
2025年
アクリル絵具、紙、
ファイバーグラス、
レジン、布、スポンジ、木

E-3②
《Inner Column:
Chest Area》
2025年
アクリル絵具、紙、
ファイバーグラス、
レジン、布、スポンジ、木

E-3③
《Inner Column:
Lower-back Area》
2025年
アクリル絵具、紙、
ファイバーグラス、
レジン、布、スポンジ、木

E-3④
《Inner Column:
Wing》
2025年
アクリル絵具、紙、
ファイバーグラス、
レジン、布、スポンジ、木

★
座って作品を鑑賞いただけます。靴を脱いでお上がりください。

～ 鑑賞の鍵 ～

Kanokoさんは、直感的に形をつくりながら、追い求める質感や強度に応じて多様な素材や技法を試みています。感覚と制御のあいだを行き来しながら生み出される作品は、肉感的なフォルムや身体・器官を思わせる曲線、人間の肌を想起させる質感が印象的です。本展では、BUGの高く伸びる壁に応答するかたちで新作《Inner Column》を展示。本作は、意識や言葉になる以前の反応が行き交う、脳と身体をつなぐ神経の通り道である背骨を象徴しています。さらに、《Core Bloom》の立体は内臓のように花のようにも見え、両作品はともに、もし身体の内にもこんなにも美しいものが広がっていたなら——そんな豊かな想像を誘います。《Lie with me》に身体を委ね、緊張や思考を手放しながら、感覚的に作品と向き合ってみてください。

プロフィール

Kanoko Takaya は、バリ島を拠点に活動するアーティスト。手で触れたいくなるような有機的なフォルムや多様な素材の探求を通じて、人間の身体、感情、自己発見の関係性を探る。2016年にバリ島へ拠点を移し、個人としての内省と自己発見に焦点を当てた創作活動を始めた。その過程で、自己表現の媒体として多様な素材を作品に取り入れ、無限の実験と非伝統的な技術により、絵画と彫刻の境界を超えようと試みている。人体を連想させる曲線やテクスチャーが特徴で、観る者に親しみと親密さを感じさせる。

Instagram



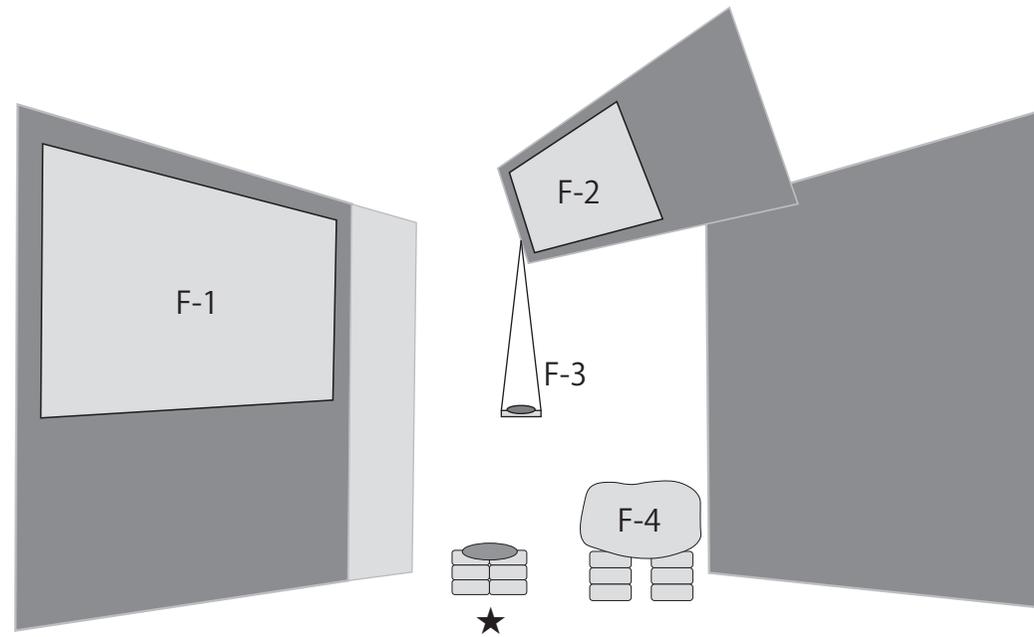
Web サイト



インタビュー



F：坂本森海／Kai SAKAMOTO



F-1
《炎と土と食べたいもの》
2025年
シングルチャンネルビデオ

F-2
《囲炉裏の煙》
2025年
シングルチャンネルビデオ

F-3
《黒陶の豚》
2025年
陶

F-4
《囲炉裏》
2025年
陶

★
座って作品を鑑賞いただけます。

～ 鑑賞の鍵 ～

坂本さんは、陶芸の制作過程に関わる土や火、窯、さらには器として使う人々や食べ物など、さまざまな側面に目を向けて作品を展開します。2024年、坂本さんはインド北東部・ナガランド州に滞在。そこでは「ナガカレー」が日常食で、生きた豚の屠殺や囲炉裏での燻製といった光景が日々の生活のなかにもありました。本展では、語源に「命を吹き込む」という意味をもつアニメーションを用いて、豚と同程度の重量の粘土で「生かす／殺す／窯にする／食べる」の行為を試みた作品《火と土と食べたいもの》、あわせて日本に暮らすナガ人へのインタビューをもとに制作した新作《囲炉裏の煙》を展示。少し薫香の漂う空間で、坂本さんが抱くナガランドの日常と、その生活が時代や環境とともに変化していくこと、そして変わらず残るものに思いを巡らせてみてください。

プロフィール

陶芸家 / 美術家。1997年生まれ。長崎県出身。2019年旧京都造形芸術大学美術工芸学科総合造形コースを卒業。同年からシェアスタジオ「山中 suplex」に在籍。陶芸が内包する、土や火、食べることといった根源的な行為や要素を手がかりに、陶芸や映像、ワークショップなどを使って作品を制作している。

Instagram

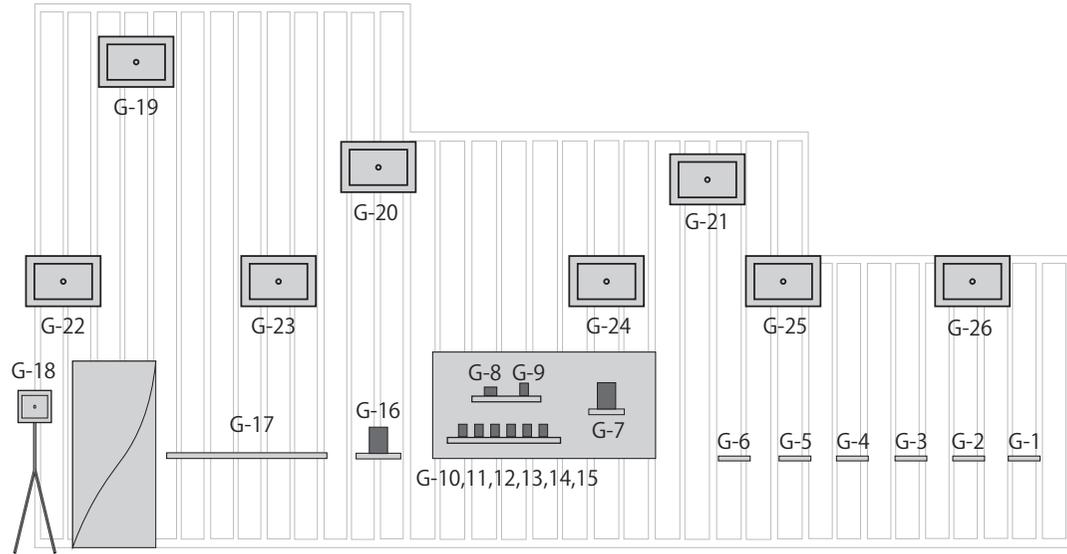


インタビュー



G : 吉田勝信 / Katsunobu YOSHIDA

G-1



G-1 《Specimen Lumen #007 BUG Leaf》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、葉、石

G-2 《Specimen Lumen #008 BUG Leaf》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、葉、石

G-3 《Specimen Lumen #009 BUG Leaf》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、葉、石

G-4 《Specimen Lumen #010 BUG Leaf》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、葉、石

G-5 《Specimen Lumen #011 BUG Leaf》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、葉、石

G-6 《Specimen Lumen #012 BUG Leaf》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、葉、石

G-7 《Specimen Lumen #001 The Solar Trajectory》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、金属

G-8 《Specimen Lumen #002 The Lattice》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、金属

G-9 《Specimen Lumen #003 The Fenestral Frame》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡

G-10 《Specimen Lumen #004 The Speculum Fragment》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、金属

G-11 《Specimen: Lumen #005 The Vitrum Fragment》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡

G-12 《Specimen: Lumen #006 The Loft, Meridional Window》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、銅板

G-13 《Specimen: Lumen #007 The Lattice》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡

G-14 《Specimen: Lumen #008 The Akebia Vine》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、銅板

G-15 《Specimen: Lumen #009 The Pine Needle》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡

G-16 《ニエプスが構想した感光板（再現）》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、石板

G-17 《「光の採集」のためのスタディ》 2025年 ミクストメディア

G-18 《光の採集 #002 / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、金属（または鏡）、カメラ、レンズ、三脚

G-19 《光の採集 #006 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-22 《光の採集 #007 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-25 《光の採集 #004 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-20 《光の採集 #008 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-23 《光の採集 #003 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-26 《光の採集 #001 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-21 《光の採集 #002 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-24 《光の採集 #005 BUG Camera / カメラオブスキュラ+感光板》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、鏡、カメラ、レンズ

G-2
受付前
《光の採集 #001 / カメラオブスキュラ+感光板+レシビ（金属板、感光液）》 2025年 ビチューメン、ラベンダー精油、金属（または鏡）、カメラ、レンズ、三脚

～ 鑑賞の鍵 ～

採集者・デザイナー・プリンターという肩書きを持つ吉田さんは、海や山、街で採集した素材や産業副産物を用いて顔料やインクの開発研究を行っています。本展では、カフェスペースのガラスから降り注ぐ自然光に着目して「光の採集」をテーマに作品を展開しました。19世紀にニセフォール・ニエプスが発明した写真・印刷技法を参照し、自ら採集した「ビチューメン（天然アスファルト）」を使って写真原版を制作。展示空間には、実験過程の資料に加え、光を複製し続けているカメラ・オブスキュラや原版が設置されています。この文章を読んでいるあいだにも進行する光の採集と、会期中に増え続ける光の複製—それを数千万年もの時間を内包する採集物によって実現しようとする試みです。積層された複数の時間軸を想像しながら、展示作品を観察してみましょう。

プロフィール

採集者・デザイナー・プリンター。山形県を拠点にフィールドワークやプロトタイピングを取り入れた制作を行なう。近年の事例に海や山から採集した素材で「色」をつくり、現代社会に実装することを目的とした開発研究「Foraged Colors」や超特殊印刷がある。趣味はキノコの採集および同定。

Instagram



X



Web サイト



インタビュー



参加型プログラム

出展アーティストによる参加型プログラムを会期中に開催します。

各プログラムでは「ラーニング」(Learning)の視点を入れ、異なる背景を持つ人々が双方向的なコミュニケーションのなかで、気づきや学びを得られる実践が生まれることを目指しています。

どなたでもご参加が可能です(小学生以下は保護者同伴)。

また、会期中出展アーティストやゲストを招いたトークイベントを開催します。

※要事前予約／予約ページは順次公開予定

Aokid

「何か作りたかった、なりたかった私、
が、東京を作ってきたんだっ。」

12月27日(土) 14:00 - 16:00

1月23日(金) 14:00 - 16:00

1月25日(日) 17:00 - 19:00

1月31日(土) 17:00 - 19:00

※連続参加・単発参加のいずれも可能です。

芦川瑞季

「『使い道のない公園』をつくる」

12月28日(日) 13:00 - 16:00

1月12日(月) 13:00 - 16:00

※同内容のワークショップです。

KANOKO TAKAYA

「“Kone-Kone Tsuru-Tsuru
Making 私の相棒”ワークショップ」

12月21日(日)

11:00 - 13:00

15:00 - 17:00

※同内容のワークショップです。

坂本森海

「東京駅をパンにして食べる」

1月18日(日) 13:00 - 16:00

2月6日(金) 19:00 - 21:00

※このワークショップは連続参加型(全2回)です。

「ナガカレー料理教室4」

2月7日(土) 18:30-20:30 参加費:1,000円

※開催時間は決まり次第、予約ページにて公開します。

タツルハタヤマ

「DIYファッションスナップ」

12月20日(土) 13:00 - 16:00

「パッチワーク絨毯deどこでもピクニック」

1月24日(土) 13:00 - 16:00

八木恵梨

「怒りとテーブルマナー」

1月11日(日) 14:00 - 16:00

「ちゃぶ台返しについての考察」(仮)

1月21日(水) 19:00 - 20:30

吉田勝信

「光の採集と複製Ⅰ:光を採集する」

1月17日(土) 15:00 - 18:00

「光の採集と複製Ⅱ:光を複製する」

2月1日(日) 13:00 - 16:00

※このワークショップは連続参加型(全2回)です。

バグスクール 2025：モーメント・スケープ

会期：2025年12月17日～2026年2月8日

主催：BUG

キュレーション：池田佳穂

会場設計：内海皓平

運営：小林祐希、石井貴子(BUG)

運営アシスタント：山下港

制作：堀田ゆうか、吉沢文江(BUG)

広報：野瀬明子(BUG)

告知物デザイン：関本明子

翻訳：鈴木梨穂

作品・会場撮影：山本康平

インタビュー・会場映像撮影：西野正将

設営：HIGURE 17-15cas